

尿路結石に対する衝撃波治療



泌尿器科
鶴谷 部長

現在、尿路結石治療の第一選択肢として世界中に広く普及している体外衝撃波結石破砕術という手術方法があります。これは「衝撃波」を利用した治療法ですが、衝撃波研究の歴史は古く、第二次世界大戦の旧ドイツ海軍の兵器開発までさかのぼります。魚雷にかわって艦船を攻撃する兵器として開発が進められましたが、開発は失敗に終わりました。しかしその後、衝撃波を生体に応用することに成功し、1980年にドイツのミュンヘンで発明されたものが体外衝撃波結石破砕装置です。腎臓や尿管など体内にできた結石に焦点を合わせて衝撃波を照射すると、切開などの外科手術をおこなわずに結石を破砕することができます。この装置は1988年に日本でも保険適応となり、また最近では、結石治療以外にも整形外科領域の肘や肩、足底等の疼痛治療や難治性の骨折の治療にも低出力の衝撃波が利用されるようになってきています。また閉塞性動脈硬化症などの血管に対する治療にも応用されているようです。

当院では、2017年から体外衝撃波結石破砕装置を導入して尿路結石治療を開始しました。体外衝撃波結石破砕治療の特徴は、合併症や後遺症があまりないため体への負担が少ないということです。通常の外科手術のように体に傷を残すことがありませんし、治療後の療養も必要ではありませんので、すぐに日常生活や仕事に復帰することができます。これまで当院で行なった約100例の治療成績では、約8割の患者様で治療した結石をほぼ全て体外に排出することができました。



尿路結石症は、食生活の欧米化などによって日本人にも増加している病気の一つです。尿路結石は十分な水分摂取とバランスのとれた食事をするすることで、ある程度は予防することができます。しかし尿路結石症になってしまった場合には、結石が体外に出るまで強い痛みを苦しむことがあります。残念ながら、尿路結石はそのほとんどがカルシウム含有結石のためお薬で溶かすことができません。もし尿路結石になってしまった場合には、体外衝撃波結石破砕術などの治療が必要かどうか泌尿器科に御相談ください。

2月 新任医療スタッフの紹介



氏名：横沢 絵里 職種：看護師 出身地：山形県 趣味特技：温泉めぐり
紹介：患者さまが安心して入院生活をおくれるようサポートします。宜しくお願い致します。



氏名：根本 あゆみ 職種：薬剤師 出身地：宮城県 趣味特技：旅行、音楽鑑賞
紹介：お薬の飲み方、飲み合わせについてお困りの方はお気軽にご相談ください。小さいことでもお力になりたいと思います。宜しくお願い致します。

「糖質オフ」や「糖質ゼロ」の落とし穴には要注意!

【栄養管理室 管理栄養士 鶴木 綾】

体重や血糖値が気になるけれど、なかなかやめられないものの一つにアルコールがあります。最近、「糖質オフ(100mlあたりに含まれる糖質が2.5g以下)」や「糖質ゼロ(100mlあたりに含まれる糖質が0.5g未満)」のお酒が注目されており、これだったらいくら飲み過ぎても大丈夫と安心して多量に飲んでいる方はいらっしゃいませんか? 糖質とは三大栄養素である炭水化物から食物繊維を除いたもので、血糖値を上げやすい栄養素とされています。そのため、血糖値を気にされる方が糖質オフや糖質ゼロに切り替えれば血糖値へ与える影響は少なくなります。エネルギーはゼロではないため多量に飲むとエネルギー過剰となり結果肥満の原因となってしまう。また、あくまでもお酒の主成分はアルコールですので、飲み過ぎは肝機能障害につながる場合もあります。



糖尿病や脂質異常症などの生活習慣病予防のためには、アルコールも適量(日本酒なら1合、ビールなら中瓶1本、焼酎なら半合、ワインならグラス2杯程度)を守ることが大切です。また、肝臓を休ませるためにも週2日は休肝日を設けると良いでしょう。

◆医療安全研修会のご報告◆

1月21・22・24日の3日間、リスク部会が中心となり「医薬品劇薬・毒薬、毒物・劇物の正しい取扱いについて」の研修を行いました。参加者は143名でした。

**◆第3回 院内デイケアのご報告◆**

1月24日に入院中の患者さま対象のデイケアを開催しました。患者さまはボウリングゲームや体操に参加し楽しく体を動かしました。院内デイケアは定期的に行っています。

**◆「節分豆まき」のご報告◆**

2月1日患者さまに四季を感じていただくことを目的のひとつとして季節行事の「豆まき」を行いました。患者さまは赤鬼と青鬼に扮した社員3名めがけ、「鬼はそと」の掛け声と共に紙製の豆を投げました。参加した方々の笑い声とイキイキとした表情が印象的でした。豆まきに参加した患者さまには、病気平癒の手づくりのお守りをプレゼントしました。

**◆第1回医学講座のご報告◆**

2月19日に第一回医療講座が開かれました。呼吸器専門医の菅野医師から、口内の清潔が誤嚥性肺炎予防に効果的との話や、飲み込みにくい食品の形状、熱や咳がない不顕性肺炎についてなどの話がありました。

また、摂食・嚥下障害の認定看護師から誤嚥を防ぐ食事方法についての話があり、その後言語聴覚士の音頭で食前にできるミニ体操を60名の参加者全員で行いました。最後に菅野医師から、食べることは体の維持だけでなく楽しみ・喜び・生きがいであり、誤嚥性肺炎にならない体づくりが大切であるとの話がありました。

**理念**

高度で良質な医療と心のこもった患者サービスで地域社会に貢献し、調和のとれた企業立病院をめざします。

院 是
調 和

～基本方針～

1. 高度かつ良質な医療を提供し、地域医療機関との機能連携を強化して企業立病院として社会貢献します。
2. プライバシーの尊重と最善のアメニティに配慮し、安心と満足が得られる快適な療養環境を整備します。
3. 全スタッフが一丸となって心のこもった患者サービスを提供します。
4. 日々研鑽に努め、責任を持って仕事に携わる質の高い医療人を育成します。
5. 医療環境の変化に対応できる健全な医療経営に努めます。